

鹿病防第22号
平成20年9月12日

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

平成20年度病害虫発生予察特殊報第1号について

鹿児島市のミニトマトおよびナスにおいて、「ミツユビナミハダニ」(*Tetranychus takafujii* Ehara and Ohashi)の発生が認められ、特殊報第1号を発表したので送付します。

なお、病害虫防除所ホームページ(www.jppn.ne.jp/kagoshima)にも掲載しています。

病害虫発生予察 特殊報第1号

平成20年9月12日
鹿児島県病害虫防除所

1 病害虫名 ミツユビナミハダニ (*Tetranychus takafujii* Ehara and Ohashi)
(ハダニ科)

2 作物名 ミニトマト, ナス

3 発生確認及び発生状況

平成18~19年に鹿児島大学(鹿児島市郡元)構内の無農薬ミニトマトほ場でナミハダニ赤色型に酷似したハダニの発生が多く認められ、平成20年1月に茨城大学後藤教授によってミツユビナミハダニと同定された。また、平成20年7月には鹿児島市の家庭菜園のミニトマトおよびナスでハダニ類による被害が認められ、鹿児島大学坂巻准教授によりミツユビナミハダニと同定された。

4 分布及び生態等の特徴

分布: 本種は国内において平成13年に大阪府のイヌホオズキで初めて発見され、新種のハダニとして記録された。その後、京都府、兵庫県および東京都でも発生を認めている。

現在、鹿児島大学では県内各地の家庭菜園を中心に分布状況を調査中である。これまでのところ、病害虫防除所の巡回調査等では、県内のミニトマト、トマト、ナス、ピーマンなどの施設野菜で本種の発生を確認していない。

生態: 本種の発生を確認している植物はミニトマト、ナス、ワルナスビ、イヌホオズキで、ナス科以外の植物から発見されておらず、狭食性であることが示唆されている。

被害: 被害は葉が黄化および白化し、高密度になると寄主植物を枯死させる(写真1, 2)。本種はナミハダニやカンザワハダニに比べて非常に高い増殖能力を持ち、ナス科作物の重要害虫になる可能性が指摘されている。

5 防除対策

- (1) ほ場周辺やほ場内のイヌホオズキやワルナスビなどの雑草はミツユビナミハダニの発生源となる可能性があるため除草に努める。
- (2) 現在、本種の薬剤抵抗性については未調査であるが、海外でナス科の重要害虫となっている近縁種の *Tetranychus evansi* はモレスタンや合成ピレスロイド系薬剤に対する感受性が高いとされている。
- (3) ハダニ類の捕食天敵であるミヤコカブリダニやチリカブリダニはミツユビナミハダニをほとんど捕食しないため、本種に対する防除効果は期待できないと考えられる。

6 参考文献: 大橋 和典・小坪 遊・高藤 晃雄 (2003) : 日本ダニ学会誌 12(2) : 107-113
小坪 遊・大橋 和典・高藤 晃雄 (2004) : 日本ダニ学会誌 13(1) : 71-76

ミニトマトでのミツユビナミハダニの発生状況



【写真1】被害状況



【写真2】寄生状況



【写真3】ミツユビナミハダニ成虫